

支援部だより

堺市立上神谷支援学校

支援部だより No. 1

2026. 6. 30 発行

○特別支援学校におけるセンター的機能とは・・・

地域において特別支援教育を推進する体制を整備していく上で、特別支援学校は中核的な役割を担っています。上神谷支援学校においても、専門性を活かしながら堺市立の幼稚園、小中学校、高等学校を積極的に支援していき、特別支援教育の輪を広げていきたいと思えます。

上神谷支援学校のセンター的機能の取り組み

1. 外部専門家派遣事業（学校園からの申請による）

→ST（言語聴覚士）、OT（作業療法士）と本校支援部職員が訪問します。

- （1）堺市立学校園に通う幼児、児童・生徒への指導、支援
- （2）堺市立学校園の担任等への研修として
- （3）公開研修会の開催…外部専門家派遣事業の一環で特別支援教育に関する研修の場として、公開研修会を行います。

2. 他校園教育相談の実施

（1）訪問教育相談（学校園からの申請による）

→本校支援部職員が訪問して相談に応じます。

- （2）来校相談
- （3）電話相談

※各校園の窓口である特別支援教育コーディネーターと連携しながら取り組んでいます。

3. 他校園職員研修への協力（学校園からの申請による）

（1）本校支援部職員が校内研修に参加します。

①講師として

②研究授業等の助言者として

（2）外部専門家派遣事業として実施することも可能です。（「1. 外部専門家派遣事業」参照）

4. 学校園への教材等の紹介や貸出

- （1）書籍、支援グッズの紹介・貸出
- （2）教材教具の紹介・貸出
- （3）検査道具の紹介・貸出

5. 情報発信

（1）支援や教材、それらの工夫等の紹介

（2）外部専門家派遣相談内容の紹介

本校ホームページ「支援部だより」にて

6. 学校見学会の実施

本校の概要説明や施設見学を通して、特別支援教育に関する相談・情報提供の機会としています。



昨年度も幼児、児童生徒のニーズに応じた支援・指導を充実させるために、様々な形で地域の学校園の教員や保護者に対する取り組みを進めてきました。

訪問教育相談・外部専門家派遣事業の活用

| | 外部専門家派遣 | 教育相談 |
|-----|---|---|
| 訪問者 | <ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士 (ST) ・作業療法士 (OT) ・心理士 | <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校の職員 (主にコーディネーター) |
| 対象 | <ul style="list-style-type: none"> ・在籍が通常学級、通級、支援級問わず相談が可能 ST… 構音障害、吃音、学習面、コミュニケーション全般 OT… 粗大・微細運動、感覚面、姿勢や学習環境設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・主に知的障害のある児童生徒 |
| 備考 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業観察を実施 ・教職員への助言が中心 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業観察を実施 ・教職員への助言が中心 |

〈相談例〉

- ・学習の遅れが気になる。背景にあるしんどさが知りたい
- ・支援学級の授業時数の増加により、どのような授業づくりを行うか悩んでいる
- ・知的発達症のこどもにどのように授業を行うか、どのような教材を用意したらよいか分からない
- ・対人面や行動面に課題があり頻繁にトラブルが起きるが、どう指導していくか行き詰る
- ・保護者から育児の悩みについて相談を受けるが、どう応えてよいか分からない
- ・構音指導、吃音、場面緘黙等について相談したい
- ・不登校児童・生徒へのサポート、保護者の悩みについて一緒に聞いてほしい
- ・進路や卒業後に生きて働く力を身につけるために必要な取り組みを教えてほしい
- ・肢体不自由の児童生徒への指導・支援、腰を痛めない介助の方法について聞きたい
- ・校内支援委員会等で挙がる事例について、どの関係機関に繋ぐとよいか教えてほしい

※「こんな相談はできますか？」等、ご質問がありましたら、お気軽にお問合せください。

支援学校の職員や言語聴覚士 (ST)・作業療法士 (OT)
などの外部専門家が皆さんの学校まで出向き、
直接お話を聞いて先生方に対して助言を行います。



堺市では、支援学校のセンター的機能の一環として、地域の学校園からの依頼に基づき、本校の職員が訪問して相談に応じる、『訪問教育相談』を実施しています。

『訪問教育相談』では、対象の幼児、児童生徒の様子を観察し、支援の方向性を学校園とともに考えます。

適切な
実態把握



支援の方向性を
明らかにする



具体的な取り組み
に繋げる

